

東京大学大学院 助教
原 辰徳



主な経歴：

1981 年生まれ。

2004 年：東京大学 工学部システム創成学科 卒業

2009 年：東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 博士課程修了（博士（工学））

2009 年：東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 特別助教

2010 年：東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 助教

研究活動：

無形性の特徴を持つサービスを受け手の視点から記述し、評価するためのサービス工学に関する研究に従事。特に博士論文では、マーケティング、設計工学、プロセスモデリング等を理論的基盤として、サービスの機能とその提供プロセスの統合表現に関する研究を取り纏めた。また、これらのサービスの表現手法を基礎とし、サービスの上流設計を支援するための計算機システム **Service Explorer** の開発を先導してきた。**Service Explorer** は東京大学、首都大学東京、および国内企業との産学連携型の研究組織で開発を続けており、国内外の大学・企業への配布実績を有し、特に海外から高い注目と評価を得ている。2009年3月に、サービス工学に関する論文で学内初の学位（博士（工学））を取得し、東京大学学生表彰 工学系研究科長賞（博士・研究）を受賞。

現在は、製造業製品のサービス化に関する「製品サービスシステム」と、顧客経験が強く表れる「観光サービス」を対象に、設計生産プロセスと顧客経験プロセスの連携に関する研究を遂行中。キーワードは「モジュール化と再構成」「サービス利用過程のモデル化」「顧客参加型のサービス構成支援」。

抱負：

今回の研究開発プログラムを通じて、研究成果はもちろんのこと、サービス科学・工学に携わる日本の若手研究者が十分に活躍できる場づくりに貢献できればと思います。